

## 校名：京都教育大学附属桃山小学校

所在地：〒612-0072

京都市伏見区桃山筒井伊賀東町46

電話番号：075-611-0138

記載日：2016年 4月 12日

記載者：兒玉裕司

記載者役職：副校長

### 貴校の校風、おおまかな特色について：

本校は、酒づくりや豊臣秀吉の伏見城で名を知られている京都市伏見区の桃山にあります。この辺りは伏見城の城下町だったところで、地名にはその名残りがあり、校舎の屋上からは伏見桃山城が望め、少し歩くと、桓武天皇陵・明治天皇陵などもあります。また、目と鼻の先に、近鉄電車と京阪電車の「丹波橋駅」があり、国道1号線や国道24号線も学校のすぐ近くを通っています。このように本校は、歴史や自然そして交通に恵まれた場所に位置しています。

学校教育目標に「自分の考えをしっかりと持ち、共に学び合う子ども」を掲げ、「明日の文化を担う『ひと』の育成」を目指して教育活動に取り組んでいます。自ら自分たちの生活を切り開いていく「自立の力」と、互いを尊重し合いながら共に生きていく「共生の力」を育むことを目指し、学校目標を「自分の考えをしっかりと持ち、共に学び合う子ども」としました。また、「コミュニケーション能力を高める」ことに重点を置いて教育を推進し、研究としては、○英語教育強化地域拠点事業（文科省研究開発指定）、小学校での英語科の教科化に向けた研究。○桃山地区三校園連携研究（附属幼稚園・附属桃山小学校・附属桃山中学校）、学びの主体性を育む連携教育研究。○大学との連携研究（グローバル人材育成）、英語・多文化共生・コミュニケーションの3本柱から、大学と共同研究。○新教科「メディア・コミュニケーション科」（文科省教育課程特例校指定）、メディアを選択し活用して、自分の思いや考えを伝え合うことができる力を育てるための教育課程・指導目標、内容、方法の更なる充実研究。と特色を持った取り組みをしています。

### 貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 追跡調査をしているかどうか、また、その方法
- ② どの程度、把握できているか、また、その情報はどこが持っているか（大学、学校園、その他）
- ③ 状況を具体的に書きください

①追跡調査は行っていない。

②同窓会等が行われたときに情報として学校が把握する程度である。

③状況を具体的に書くことが出来ない。

### 貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 追跡調査をしているかどうか、また、その方法
- ② どの程度、把握できているか、また、その情報はどこが持っているか（大学、学校園、その他）

③ 状況を具体的にお書きください

①公立学校に戻られての様子をその学校の校長（管理職）から聞いている。  
京都府・京都市教育委員会との懇談で活躍状況を知らせて頂いている。

②把握した情報は本校管理職が把握している。

③該当学校の学校長・教育委員会との懇談で得た情報で把握している。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：【いくつかの事例を記載いただいても構いません。大学や地域との連携、PTA や外部人材の活用、その取り組みがある一定のスパンのもとに実施されているか（前後の授業や活動などと、どのようにリンクしているか）、地域（公立学校など）へ還元されているかなどについても、わかりやすく記載してください】

○現在、本校が主たる研究として以下の取り組みを行っている。

☆我が国の伝統や文化についての理解を深め、国際社会で活躍する日本人を育成することを目指し、外部機関との効果的な連携を図った体験的・実践的な学習プログラムの開発・実践  
（文部科学省 「我が国の伝統・文化教育の充実に関わる調査研究」 研究推進地域指定）

☆小学校英語教育の早期化・教科化に向けたカリキュラムの在り方の研究及び中学校・高等学校への円滑な移行と教育内容の高度化を目指した小学校・中学校・高等学校の一貫したカリキュラム開発・実践（文部科学省 英語教育強化地域拠点事業 研究開発指定）

☆知識基盤社会を生き抜くために必要な資質や能力を育成する情報教育の中核を担う新教科「メディア・コミュニケーション科」の開発（文部科学省 教育課程特例校指定）

☆附属幼稚園・附属桃山中学校との連携し、幼稚園から中学校までの12年間の一貫した子どもの学びを探求する「附属桃山地区学校園連携教育研究」

☆平成26年度より、「グローバル人材育成プログラムの開発」として京都教育大学が進める研究との協力・連携をはかり、グローバル社会を生き抜く子どもに必要な資質や能力の研究を様々な観点から進めています。

☆学びの出発点や着想点を子どもに置いた、「子どもの側から教育を発想する」ことを研究の基盤に据え、全ての教科・領域において一貫した「子ども中心主義」の理念を貫く授業の研究。

○研究以外の取り組みでの発信  
安心・安全を考えた取り組みとして

☆「命を守るランドセル！」

東日本大震災や登校の列に車が突っ込む事故等が報道される中、京都教育大学附属桃山小学校では、1年かけて、業者と子どもの安心・安全を考えた「命を守るランリュック」(多機能ランドセル)の商品開発協力・採用を行った。

このランリュックは、もしも、川等に落ちたときに80kgまで浮かせる浮力があり、何かにぶつかった時には衝撃を吸収でき、チャックを開けると防災頭巾も収納されている。平成28年度の新1年生より、全国に発信した。(NHK「おはよう日本」放送・日本教育新聞・朝日新聞・繊維ニュース等に掲載された。

#### ☆「オレンジの水着」を使用

5年生で臨海学習を行っている本校では、水着についてもセパレートのオレンジ色水着に変更する。オレンジ色は水の中で一番目立つ色として報告がある。ライフセーバーやパイがオレンジ色もそのためである。少しでも子どもの安全安心を考えた取り組みとして、京都初の取り組みで発信する。



多機能ランドセル



オレンジの水着

#### ☆新発想の制服の採用に向けて

本校では29年度の制服採用に向けて、新しい素材で斬新的で機能的な制服開発に向け取り組んでいる。私服にかかる費用の30分の1程度の費用で家庭にも優しい制服開発を目指して、全国に発信したい。

以上の研究や取り組みを地域・全国へ発信し、附属としての役割を果たしたいと考える。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：(一般論ではなく、できるだけ、具体的な状況が理解できるように記載してください)

今までの附属桃山小学校では、地域貢献も見えづらい所が多々あったがここ近年は取り組みを形として発信することで附属の存在意義を明確に出来てきたと考える。

☆小学校英語教科に向けての先進的な研究を発信する。

☆学校におけるICT環境を整え、多くの見学者(学校施設見学会等)を受け入れ、効率よい授業を発信する。

☆音楽を通して、伝統・文化教育の推進(京都の伝統・文化を大切に受け継ぐ態度を育てる。)

保存会の方々と協力して伝統・文化継承に寄与する。

☆地域の老人福祉センターとの交流を大切にして、少子高齢化の急速な進展に目を向け、子ども達が今後の未来と役割を認識できる取り組みと言える。

☆「ほしぞら教室」を年3回開催し、地域の方にも開放して、星の講演会・星空観察を行っている。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：（現在、この国では少子化の中、少し広域に見るとミッションの重なる教員養成系大学、教育実習の場、教育研究校が存在し、そのような中、教員養成数の削減、そのための場の削減、ひいては附属学校の存在意義までが議論されています。そのような現実の中、一般論ではなく、できるだけ、貴校の実績にもとづいて、この国に附属学校が、この国および地域に貴校が、必要であることをアピールしてください）

○本校は今後の附属のあり方を模索した結果、更なる研究を進め、全国に発信することで寄与すると考え推進している。

全国にも類の少ない研究指定を3つ受け、更に他の研究も進めている。

- ①文部科学省 「我が国の伝統・文化教育の充実に関わる調査研究」 研究推進地域指定
- ②文部科学省 英語教育強化地域拠点事業 研究開発指定
- ③新教科「メディア・コミュニケーション科」の開発（文部科学省 教育課程特例校指定）

○また、研究以外の安心・安全な事へ繋がる推進とし、業者等と連携し新製品の開発にも力を入れ、「どの学校でも役立つ」を形として発信する取り組みも行っている。

以下のことは、公立学校では開発や研究検証を進めることは不可能なことであるとする。

附属だから出来る取り組みとも言える。

- ①「命を守るランドセル！」の開発
- ②「オレンジの水着」を使用・検証
- ③新発想の「新しい制服」の採用に向けて

○「大学の附属」を目指す

「大学を主体とした特色ある附属学校園の研究・研修推進化プロジェクト」を立ち上げ、センター機構、教育支援センターと連携して、附属の研究の抜本から考え直し、大学主体の研究を目指し、特色ある附属学校園の研究・研修を推進する。また、これまで取り組んで来た附属学校園の研究も大切に継続しながら大学とつなげる研究にしたいと考える。また、独自採用者・人事交流者を含む教員研修にも力を入れ、充実した教師力（資質・能力の向上）の獲得・養成にも推進する。